祝辞

益々発展して行く
近畿病院図書室協議会の前途を祝って

日本医学図書館協会
名誉顧問 津　田　良　成
（愛知淑徳大学図書館
情報学科教授）

近畿病院図書室協議会の15周年記念誌の発行おめでとうございます。そして何よりも、協議会自身が15年も有意義な活躍を続けてこられたことに対して、心からのお祝いを述べさせて戴きます。

15年前、少数の病院図書室関係で活発に活躍しておられた熱心な方々が集まられて、お互いに協力し合うことにより、各自一館のみでは望めない効果的な図書館サービスを、病院の医師やナースその他の医療関連スタッフの人達に提供することを目標に、この協議会を発足させようといろいろ苦労されました。その努力が実り、後から参加された方々と力を合せて、今日のこの一大協力体制のネットワーク組織を築き上げてこられました。

会の発足当時、私は既に医学図書館の現場を離れておりました。しかしその昔の１９５０年代初め頃に、米国の医学図書館協会の外国人に対するインターン教育のプログラムに参加した時に、ほんの数日づつでしたが、２つ３つの病院図書室でもその活動を体験させて貰うことができ、よりインフォーマルにより緊密に医師の人達と交わりながら仕事をする面白さを味うことができました。そのため、協議会の総会や研修会などで医学図書館や医学文献についての話をさせて戴くチャンスを与えて戴いた時などには、光栄と思いお引き受けしたことが今でも楽しい想い出になっております。

大部分の場合職員が１～２名という通常の病院図書室で、通常職員が１～２名で種々雑多な図書館サービスの提供と、それに伴う各種の整理業務と管理業務もこなして行かなければならない病院図書室では、本来の通常業務、通常サービスと言われているものを処理して行くだけでも大変な仕事であるのに、当然高まって行く利用者の期待に応えて仕事の質の向上を計って行くことは容易なことではないこととお察しします。

病院の医師の人達も、ナースも、薬剤師も、現在では皆それぞれの専門分野での加速化を続ける知識と新技術の進歩について行くためには、今迄以上の努力を自分達の continuing education にかけなければならなくなっているために、当然、図書室の利用の増加傾向ということも考えられます。その上、知識の蓄積が、従来のような紙に印刷された文献という形のものから、より多くのものが電子的な形その他の媒体を利用するようになってき、ビデオ、カセット、データベース、ＣＤ－ＲＯＭ、更には今後出現してくる他の種々のメディアを扱って行く情況にも対応して行かなければならないことでしょう。

したがって、皆様方の近畿病院図書室協議会も、新しい医学、医療情報の流れのあり方の変化に対応して行くためには、益々、メンバー間の協力活動という面で効力を発揮して行く必要に迫られるでしょう。

協議会の今後一層の御発展をお祈り申し上げます。